

令和元年度 西都市立都於郡小学校 学校関係者評価書

【学校の教育目標】 「夢や希望をもち、自己実現をめざし、たくましく生き抜く子どもの育成」

【本年度重点目標】 ○ 確かな学力の向上 ○ 明るく楽しい学校生活の実現 ○ 心身の健康及び安全教育の充実 ○ 特別支援教育の充実

4段階評価 4：達成 3：ほぼ達成 2：不十分 1：改善を要する

評価項目	評価指標	成果 (○)・課題 (●) 及び改善策 (◎)	自己評価		関係者評価	学校関係者コメント
確かな学力の向上	・「授業の目標やねらい」、「学習のめあて」と「まとめ」の整合性のある授業実践を通して、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る。	○ 「めあて」と「まとめ」のカードを作成し、全員が授業改善を意識した授業実践を行った。相互に授業参観し、事後研や自己評価・相互評価をすることで、授業力を高めてきた。 ● 学力調査、教科の単元によっては、学力が十分に身に付いているとは言えない。 ◎ 学習内容を確実に定着させるため、発問・指示等を精選し、効率的に学習を進め、習熟、定着の時間を確保する。	2.9	2.9	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ・学力については、学年により基礎学力にばらつきがある。担任の先生の指導が正しく行われているか、他の先生や保護者の声を聞き、改善に努めることが望ましい。 ・小規模校のメリットを活かし、児童一人ひとりにあった個別の指導を保護者と連携し行って学力向上を図ってください。 ・学力の底上げを図るための方策（個別対応・家庭への協力依頼など）を知りたい。 ・学校や学習が楽しいと思える位置付けの指導。すべての押しつけでは、児童自身が学ぶことはできないと思う。 ・読書活動が増えたことにより、読書量が増えたと思う。
	・週1回の図書室での読書時間の設定や図書貸出の積極的な呼びかけ、ボランティアによる「お話タイム」等により、読書活動の充実を図る。	○ 図書支援員と連携して、読書に親しむ環境づくりができ、各学年の読書量も増えつつある。 ● 学年が上がるほど、週1回の図書室での読書時間を確保できなかった。 ◎ 授業の進め方を見直し、時間割等に読書時間を確保する。	2.9			
	・参観授業や日々の学習活動等に外部講師を積極的に活用することにより、地域と連携した教育活動の充実を図る。	○ 各学年とも、教科等の年間指導計画に位置付けられた福祉に関する学習や伝統的な踊り等において、積極的に地域の外部講師を招聘し有意義な授業を実現できた。 ● 事前の打ち合わせのための時間確保等が十分とは言えない。 ◎ 外部講師、団体等の都合や他の講師や団体等の情報について、早急に確認し、依頼等の対応していく。	2.9			
明るく楽しい学校生活の実現	・「あたりまえのこと三か条」を始め、指導事項の共通理解と共同実践、家庭への「早寝、早起き、朝ごはん」の啓発を通して、基本的な生活習慣の育成に努める。	○ 「あたりまえのこと三か条」については、全校朝会や計画的に学級活動等で指導し、基本的な生活習慣の向上につながった。学級懇談や学級通信等により、生活リズムの家庭への協力呼びかけ、啓発を行ってきた。 ● 校内歩行の仕方は、全職員での指導が十分に徹底できていなかった。 ◎ 改善点を確認し、指導方法を共同実践していく。	3.4	3.4	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・明るくのびのびしているように見受けられる。 ・先生方の指導は見られるが、より一層の家庭との連携をとり児童の情報の共有が臨まれる。 ・クラス替えがないため、児童一人ひとりに目をとどかせ、きめ細やかな指導をお願いします。 ・格差社会により、子どもたちの間にもその影響が感じられる。子どもたちの生活態度を通して親との対話をする事で、学校での生活面が向上すると思います。 ・いじめ等、年々減少しているのでは、アンケートや職員の方々の努めが良かった。
	・道徳の授業の完全実施や体験的な活動等の充実により、豊かな感性を育むとともに、規範意識や自主性、社会性の向上を図る。	○ 道徳の時間や体験活動など、計画的に実践できた。 ● 体験活動の充実を図り、さらに規範意識などを高めていく。 ◎ 道徳の時間の在り方を再確認し、今、求められている学習活動を展開していく。	3.4			
	・「学校いじめ防止基本方針」に沿った教育活動の充実、いじめ不登校対策委員会の定例開催等による情報共有、共同実践により、いじめの未然防止に努める。	○ アンケートや教育相談の実施後、全職員で情報の共有化を図り、いじめや不登校などの防止に努めることができた。 ● 全職員による会の回数や時間、内容等の在り方を見直し、月行事計画に位置付けていく。 ◎ 今後もあらゆる機会を捉えて、早期発見、未然防止に努めていく。	3.4			
心身の健康及び安全教育の充実	・体力向上プランに沿った確実な実践に努めるとともに、「さわやかチェック」による健康意識や外遊び等による基礎体力の向上を図る。	○ 体力テストの結果を受け、継続的な体力づくりにより体力は向上している。外遊びをする児童も多い。 ● 体力テストの課題解決に向けた取組を確実に実践していく。 ◎ 「さわやかチェック」による健康面については、今後とも、家庭への啓発を続けていく。	3.0	3.0	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・登校では雨でも歩く児童もいるが、概して車での送りが多いと感じる。 ・安全は校内ばかりでなく、登下校時の歩行も行うべきと思われる。時々、はみ出し等何度か「ハッ」と思うことがあった。 ・近年、予想を上回る災害が毎年発生している。現状に満足せずに、新しい情報を取り入れ子どもたちの安全に努めてほしい。 ・子どもの視線での危険予測を行った結果の改善・周知をお願いしたい。非常時の訓練方法として、短時間で反復し、体で覚えるような訓練も考慮してほしい。
	・避難訓練時の「おはしも」の完全定着や日常の安全指導の充実を通して、防災・安全意識を高め、危険予測・回避能力の育成に努める。	○ 計画的に避難訓練ができ、「お・は・し・も」を守る児童の真剣な姿も見られた。社会科の学習内容と関連付けたり、日常のニュース等を話題にしたりして、防災、防犯、安全意識を高めてきた。 ● 「子どもによる安全点検」のように、危険予測・回避能力の育成を図る手立てを講じていく。 ◎ 非常時の児童の動き、保護者対応等、計画を見直し、改善していく。	3.0			
	・日常の給食指導や栄養教諭による食に関する指導の充実、及び学年の発達段階に応じた「弁当の日」の実践等により、食育の充実を図る。	○ 栄養教諭による食に関する指導や「弁当の日」の実践などを通して、計画的に食育を推進できた。 ● 「弁当の日」がさらに充実できる工夫をしていく。 ◎ 給食指導に全職員で取り組み、共同実践していくとともに、栄養教諭による指導の実践、家庭への啓発も行っていく。	3.0			
特別支援教育の充実	・年3回校内研修の実施と参観日等による講演会実施等により、特別支援教育に係る資質・能力の向上に努め、校内の特別支援教育体制の整備・充実を図る。	○ 全職員での児童理解や支援体制づくりに努め、支援員と連携しながら配慮の必要な児童への支援を行うことができた。 ● 特別支援教育に係る資質・能力の向上を図るため、研修の在り方、時間等の設定等を工夫していく必要がある。 ◎ 今後とも、より充実した体制づくりを構築していく。	3.2	3.2	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・参観等で見る限り、支援を要する児童への配慮がよくなされていると思う。 ・学校全体の取組、先生方の様子から、良く計られている様感じました。 ・支援クラスの子どもたちは、自閉症など対応がさまざま。各自の能力に合わせた指導が必要。担任だけではなく、学校全体での見守りが必要。 ・保護者や地域と連携を図り、更によりよい体制づくりをお願いします。
	・特別支援教育の充実を図るために、支援に係る児童と保護者との合意形成や学校便りによる地域への話題提供、啓発を積極的に推進する。	○ 支援の必要な児童の保護者や関係機関と協力体制をつくり連携を図った。 ● 特別支援教育について、保護者や地域へ積極的に啓発していく。 ◎ PTA総会や学校だより等をとらえて、特別支援教育に対する啓発を行っていく。	3.2			
	・関係機関を利用した児童観察、諸検査の実施、児童及び保護者へのフィードバックを通して、関係機関との連携の充実を図る。	○ 児童観察から保護者へのフィードバックまで、関係機関も交え、一連の流れが構築できた。 ● 児童の実態について、保護者への連絡、理解を得る等は今後も引き続き行っていく。 ◎ 上記の啓発の機会に、関係機関との連携もあることを説明していく。	3.2			